



3月です！ポーポキは咲いている花や新緑が大好きです！  
毎日、新しいものを発見します！  
あなたも新しい発見ができるといいですね。

## Popoki's Hot News!

Coming soon!

報告会：「ポーポキ in 大槌町&大船渡市 2019  
2019年4月20日 18:00～ 神戸学生青年センター  
詳しくは10ページをご参照ください。



### 「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちのろにゃんは、次の「一言の平和」を送ってくれました。「私の友だちに鷺さんがいます。彼女はお気に入りのスポットがあります。出勤中に会う日も出会わない日もあります。毎朝、いるかなと思いながら出かけます。会えたら、心配のことを忘れて彼女の美しい姿に見惚れます。私にとって、それが平和のひとつです。」  
あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？

ぜひお聞かせください。

ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !



### ポーポキからのメッセージ

3月です。そろそろ、ポーポキは友だちに、「おめでとう！」や「お元気で！」と言って、友だちに声をかけて、みんなのしあわせを祈る日がやってきます。そして、ポーポキはまた新しい友だちとの出会いを楽しみにしています。

ポーポキに会いたいと思ったら、ぜひ声をかけてください。



ポーポキ東北の旅ふたたび！

作者：アスタニャンと ディニャン

日本語翻訳者：ディニャン とナギサニャン

フォトクレジット：アスタニャン, ディニャン, と ナギサニャン

2019年2月7日、ポーポキとポーポキの友達ろにゃん、さとにゃん、ラニャン、ナギサニャン、ディニャン、そしてアスタニャンはポーポキ・ピース・プロジェクトの活動を通して、大槌町と大船渡で友人たちと出会いました。以下は、ポーポキとポーポキの友達が東北で行なった活動の一部です。この報告は2月8日の活動初日からの経験や活動の内容、特にディニャンとアスタニャンからの視点となっています。またこの報告は2、3回続きます。楽しみにしててください。



(アスタニャン)

2月7日の夜、ろにゃん、さとにゃん、ラニャン、ナギサニャン、ディニャンと私の6人は、いろんな交通手段で東京に着いた後、秋葉原から大槌町までの夜行バスに乗りました。私は出発の数日前、今回を含めてポーポキと一緒に大槌町に行くのはもう3回目だと気づいて、時間が過ぎる早さにすごく驚きました。

なぜ私が今回の東北の旅にとっても緊張していたかということ、久しぶりに元持さんと彼女のお母さん、伊藤さん、植田先生、そして道又先生に会うからです。私はこの前よりすごく太って、「彼らから何か言われたらどうしよう」、「私のことまだ覚えているかな？」と思っていました。不眠の恐れがあって、緊張感をもっと感じさせられました。長い時間バスに乗った後に、私たちはやっと大槌町に到着しました。大槌バイパスローソン前で降りて、そこで元持さんが私達を迎えに来てくれて、3日間の私たちの宿泊施設であるシーカフェに車で行きました。シーカフェは素晴らしかったです。神戸に住んでいる私のシェアハウスもこのようにモダンであったら幸せなだあとと思いました。シーカフェや大槌町での滞在は心地よかったです。どこへ移動するにしても、元持さんは彼女の車で私たちを連れて行ってくれました（私たちが行った場所については、次回のレポートでお話しします）。



シーカフェについてすぐに、伊藤さんと岩手テレビのスタッフと会いました。伊藤さんとまた会えることは私にとって素晴らしく、彼女は相変わらず面白くて元気でした。一番ありがたかったのは、私に会ったときに「あ、太くなったね」の代わりに「あ、高くなったね」と言ってくれたことで、私は安心しました。ありがとう、伊藤さん！

伊藤さんが着いた後、私たちは2つのグループに分かれて、ろにゃん、ラニャン、ナギサニャン、ディニャンは伊藤さんと一緒に半日を過ごしました。それから、元持さん、さとにゃん、そして私はエル・サポートセンターに行きました。次の段落では、私が元持さん、さとにゃん、そしてセンターでの活動と経験をお話しし、その後の段落では、ディニャンが彼女のグループが伊藤さんと何をしたかについて説明します。

(アスタニャン)



エル・サポートセンターで、さとにゃんが小さなワークショップを開催しました。このワークショップでは30分から40分のポガを行いました。このセッションは私の役に立ちました。

サポートセンターの女性たちと経験を共有することも楽しかったです。彼女たちも楽しんでくれていたら嬉しいです。さとにゃんは信じられないほどすべてのポーズを一つ一つ見せてくれました。ポガセッションの後に、インフルエンザシーズン中に健康を維持する方法についての会話や交流が続きました。さとにゃんは、身近で利用可能なワクチンとマスクのオプションについて話し、その中でみんなにオススメを教えてくださいました。ワークショップが終わった後、私たちはしばらく女性たちと交流しました。会話の中では、主に大槌町の新しい開発と彼女たちがそれについてどう思うかに焦点を当てて話しました。2つの事実を発見して驚きました。一つ目に、女性たちが数年間で引っ越しした回数、二つ目に地元の人々、特に高齢者がスーパーマーケットまで行くための公共交通の手段が不足していることです。



サポートセンターでの活動後、元持さんは車でさとにゃんと私に町の新しい開発を見せくれました。私は新しい駅、コミュニティセンター（おしゃっち）の美しい図書館、新しい建物、特に「恒久住宅」などを見ることができて嬉しかったです。今ではより多くのインフラと開発があると予想していたので、建て替えるにそんなに時間がかかることに驚きました。一方、再建は確かに時間がかかり、官僚的なプロセスであるとも思っています。



観光の後、元持さん、さとにゃん、そして私は商店街のラーメン屋さんについて、ラーメンを楽しみました。元持さんが日清チキンラーメンについての「まんぷく」のドラマを楽しんで見ているのを聞いて、私も楽しむことができました。友情というものは、友たちが好きなことをあなたがすることだと思います。そうではないでしょうか？

(ディニャン)

さとにゃん、アスタニャンそして元持さんが出発した後、残りのニャンたちと伊藤さん、そして岩手テレビのスタッフは、大槌の写真を集めたビデオを見ました。伊藤さんが作った動画です。その中では、大槌町の同じ通りや場所においての地震と津波がやってくる直前と少し経った後が記録されていました。写真はとても悲しいもので、私はその時の恐怖と彼らがどれほど無力だったかを想像することができませんでした。20分の鑑賞の間、伊藤さんは写真を詳しく説明してくれました。それから彼女は私たちを蓬莱島という美しい小さな島まで車で連れて行ってくれました。島への道は少し狭くて水に囲まれているので、伊藤さんは強風のために水に落ちることを心配していました。その日は本当に寒く、私たちは手の感覚を感じることはできませんでした。それでも、この美しい場所の写真やビデオをいくつか撮りました。それから伊藤さんは私達を新しい開発でできた場所に連れて行ってくれました。私たちが行ったすべての場所について、彼女は少し立ち止まって、写真を見せて詳しく説明してくれました。彼女の大槌町対するに愛と情熱、そしてもとの町の姿を記憶しようとする努力に、私はとても尊敬しました。あとは試運行の電車を見たことがとても嬉しく、テレビスタッフも非常に興奮しており、貴重な瞬間を捉えるために車から降りてきました。最後に、ポーポキ・ピース・プロジェクトと今日のツアーについてどう感じたかについて、テレビスタッフからインタビューを受けました。「伊藤さんのことをどう思うか」と言われたときに、言いたいことは全て言ったのですが、彼女が大槌町の歩く歴史書であることを忘れてしまい、少し残念でした。



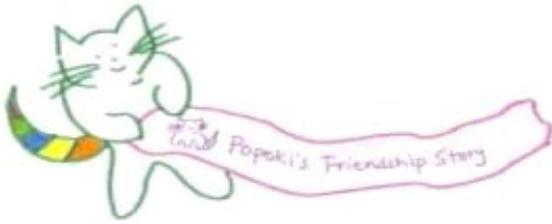
(アスタニャン)

午後は、ろにゃん、さとにゃん、ラニャン、ナギサニャン、ディニャンと私はワークショップのために Shake Hand (おばちゃんクラブ) に行きました。今回私は初めて Shake Hand を訪れました。私たちは小さな布製のサーモンを、ひも、布、その他の可愛いものでデコレーションしました。小学校卒業後にアートやクラフトをやったのはこれが間違いなく初めてでした。私たちのユニークさと創造性はデコレーションしたサーモンから見て取れます。デコレーションを終えたとき、Shake Hand のメンバーたちは私たちに「さるぼぼ」の作り方を教えてくれました。少ししたあと、Shake Hand のもう一人のメンバーがさるぼぼの作り方を教えるためだけに、わざわざオフィスに来てくれました。私たち全員は、Shake Hand のメンバーたちの愛と気遣いにとても感謝しています。



最後に、私達は次の日から始まる展示の準備をするためにマストに行きました。準備を終えたとき、夕食、その日の振り返り、そしてとても必要としていた休息のためにシーカフェに向かいました。一日のことを振り返り、ポーポキの友たちから受けた温かいもてなしと愛に驚きました。内陸国から来たラニャンとディニャンは海を見ることに興奮していました。ナギサニャンは自然と人と災害の関係について深く考えていました。彼女は、大槌町が地震と津波がくる前から劇的に変わったこと、一方で自然は同じように残っていることについて話していました。私はサポートセンターの女性たちが、年齢にかかわらず、体がとても柔軟で元気だったことに驚きました。マークトウェインは、「年齢というものは、『事態を乗り越える意識』の問題だ。意識しなければ、年齢なんてどうでもよい事態なのです」と述べています。長い会話の中でたくさん考えた後、私たちはさらに良い明日を期待して一日のチャプターを閉じました。





## \*Popoki's Interview\*

話し手: ラリティアさん

聞き手: ラニャン

去年の夏、ポーポキは神戸大学ユネスコチェアサマープログラムに参加するためにインドネシアを訪れました。そこで、ポーポキはいろいろな国からきた友だちを作りました。その友だちの中でインドネシア人のラリティアさんという友だちは災害についての考えと夏のプログラムについての印象をインタビューで共有してくれました。

### 1. あなた自身のことについて教えてください。

メオング！（インドネシアの猫の「こんにちは」という言葉です。）。^\_^。ジョグジャカルタという町について聞いたことがありますか。うん！インドネシアのきれいな町のひとつです。私はこの美しい町に住んで、勉強しています。私はガジャ・マダ大学、もっと簡単にいうと UGM という大学の学生です。ああ！忘れるところでした！はじめまして、私の名前はラリティアです。

### 2. なぜこのユネスコチェアサマープログラムで参加することにしましたか。

私は国際的な活動に参加することが好きです。新しい人と出会ったり、海外からの友だちと話し合ったり、コミュニケーションをとったりすることが私を幸せにします。その他の理由は、他の国々の災害だけではなく、その国の文化、研究の仕方、あるいは社会的関心についても、様々なことについて学ぶのが好きです。だからサマープログラムに参加することにしました。



### 3. サマープログラムに参加してから災害についての考え方は変わりましたか。

このプログラムに参加する前は災害について多くのことを知っていたと思いました。しかし、プログラムの活動やクラスに参加するたびに、私はいつも新しい面白いものを見つけることができました。まだ災害についてももっともっと学ばなければならぬと気づきました。

「災害」という言葉を聞くと、いつでもどこでも起こり得ることだと思うので、常に意識して、準備する必要があります。知識を得ることや準備に必要なことを学ぶ良い方法のひとつは、このようなプログラムに参加することだと思います。プログラム終了後、私の災害についての考えはまったく変わりませんでした。しかし、前より深く、そして強くなりました。

#### 4. 災害発生時最大の課題は何だと思いますか？

それは災害に関する意識だと思います。私は自分の国の人々について考えながらこの質問に答えています。災害について話すことが不運をもたらすと思っている人はまだたくさんいます。だから彼らは災害だけではなく、防災に関する話題も避けようとしています。

それによって、彼らの問題意識が低くなります。必要性に気付いていないので防災の準備をする可能性が非常に低いでしょう。そして、あまり準備しないと、災害が起きたときに無事である可能性が低くなるでしょう。しかし、ありがたいことに、最近、災害に対する意識が高くなり備えの重要性に気づいている人が多くなってきています。

#### 5. プログラムの期間中でポーポキと色々な国から来てさまざまな経歴を持っている学生に出会うことについてあなたの印象を教えてください。

それは私にとって素晴らしい経験でした！ポーポキは厳しくて同時にかわいいと思いました。ポーポキは人の性別、国籍、年齢、肌の色、猫や人間でいるかどうかにかかわらず、私たちは全員が兄弟姉妹であることを教えてくれました。そして、私たちはみんな、幸せや安全や大事にされる権利があると教えてくれました。多くの国々からきた学生たちやさまざまな経歴を持っている学生たちと出会うことは本当にうれしかったです。それは私に「災害管理における共同作業」という言葉の本当のビジョンを与えてくれました。どの分野でもそれぞれ独自の防災管理の役割があり、災害に強い環境を作るために協力することが必要です。

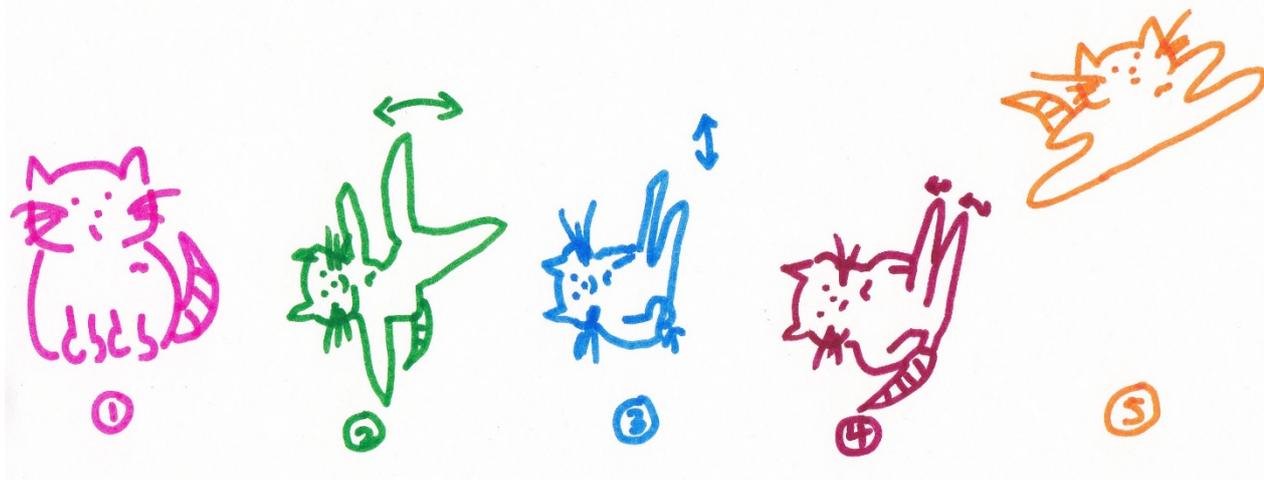
私たちは、お互いの文化や多くのことについて話しました。私たちはプログラムの間に仲良くなりました。プログラム終了後もみんなと連絡をとって、ただだんに「こんにちは」と言ってくれることでも私を幸せにします。世界中にたくさんの兄弟姉妹がいると感じるからです。みんなとまた会いたい。みんなに伝えたいことが一つあります。「あなたの良い思い出に私がいることを忘れないでね。そして、私たちはみんな、海によってつながっていること忘れないで下さい」。ありがとうございます！」



# ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

## Lesson 130

今月のテーマは、足をストレッチ！



1. まず、いつものように、美しく座りましょう。
  2. では、あお向けになりましょう。手は横へ広げるか腰を支えるかにしながら、足とお尻をあげましょう。安定してきたら、足をゆっくり開いたり閉じたりしましょう。
  3. 次は、同じ姿勢を保ちながら、膝をまげたりのばしたりしましょう。
  4. 最後は、足首のストレッチ！右へ回し、左へ回し。前後に動かすのもいいですね！
  5. できてもできなくてもがんばりましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！
- お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

## 一緒にいかが？



次回のポー会：4月20日 報告会后（神戸学生青年センター）

- 4.12 アート・災害・安心研究会ワークショップ グリーンベリーズカフェ 19:00～
- 4.13 「セクシャルマイノリティ差別と取り組む兵庫教区対話集会 in 阪神地区」ワークショップ（ろにゃんとポーポキ）14:00～16:00 どなたでも参加できます  
甲東教会（阪急甲東園駅より徒歩3分）
- 4.20 報告会：ポーポキ in 大槌町と大船渡 2019！ 神戸学生青年センター 18:00～ 詳しくは次ページをご参照ください
- 4.29 「ポーポキと一緒に安心、安全そして平和を考える」ワークショップ。チェンマイ YMCA（タイ国）
- 6.1 読み聞かせ会 はとぽっぽ保育所（予定）
- 6.30 灘チャレンジ！

ポーポキ・ピース・プロジェクト



Popoki Peace Project

## 大槌町・大船渡市 活動報告会 2019

Report meeting on Otsuchi and Ofunato activities 2019

ポーポキ・ピース・プロジェクトは、2005年より身体と感性と想像力を使って平和を創造する活動をしている団体です。2011年からは、岩手県大槌町を訪れて「友情物語」という活動を行っています。

このたびは2019年2月8日から2月11日まで、岩手県大槌町で展示活動など、大船渡市でワークショップをしました。最近の大槌町の様子、初めての大船渡活動、最近のポーポキの動向など、みんなと共有し話し合えればと思います。

ポーポキのお友だちも、ポーポキをまだ知らない方もみんな、歓迎します！

Popoki Peace Project is an organization emphasizing use of the body, senses, and imagination in creating peace through workshops and other activities from 2005. Since 2011, we have visited Otsuchi-cho, Iwate Prefecture and done activities of Popoki Friendship Story.

This year we had an exhibit and other activities in Otsuchi, and a workshop in Ofunato City from 8 – 11 February. We would like to share and discuss what is happening in Otsuchi, our first experience in Ofunato, and Popoki's current activities.

Popoki's friends, those who have not yet met him or don't know him well, everyone is welcome!

日時/Date : 2019年4月20日(土) 18:15~20:00 (18:00会場・open)

場所/Venue : 神戸学生青年センター Kobe Student Youth Center

神戸市灘区山田町 3-1-1 Nada-ku Yamada-cho 3-1-1 Tel.078-851-2760

参加費/Fee : 無料 Free

言語/Language : 日本語/英語 Japanese/English

主催/ : ポーポキ・ピース・プロジェクト Popoki Peace Project

お問い合わせ・お申込み/ Information and Reservations  
[ronniandpopoki@gmail.com](mailto:ronniandpopoki@gmail.com)

会場地図 MAP



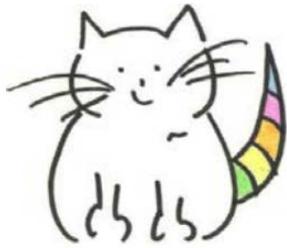
# Popoki in Print

ポーポキ通信のバックナンバー：

<http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- 「ポーポキのミニ平和映画祭」「こくしのみど52」『神戸青年・Kobe YMCA News』No.652 2017.7-8
- ESD Digital Archives, Kansai Council of Organizations for International Exchange <http://www.interpeople.or.jp>
- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ！」<http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』(貝原加奈 2014.4.25 28面)
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』(2013.8.23 朝刊 地域経済 8面)
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』(2013.8.7 朝刊 22面)
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひとと抄」『読売新聞』(2013.2.16 夕刊 4面)
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に9条がある」NO : 66 2012年5月12日[子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」斎藤雅志 『神戸新聞』2012.1.19 (伝える1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing” (Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 「『ポーポキ、平和って、なに色?』の背後にあるもの」(連載) とさぼりライフ第19号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑮(パレスチナについて) 『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる！」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] [http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602\\_ja](http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja)
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色? ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第2号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色?』」「私のいち押し」奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第35号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色? ポーポキのピース・ブック2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第2弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか?」 RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇宙賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組。(リンクは現在無効)
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会 『世界人権宣言』 ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500円。詳しくは: [blrhyg@osk3.3web.ne.jp](mailto:blrhyg@osk3.3web.ne.jp)
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは?」Kumamoto YMCA News 10; Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全30条 イラストで表現 地元ゆかり 6名がパネル制作」2008.10.8 10





## 私にとってポーポキ

もりにゃん

家族3人で、初めての海外旅行に行きました。息子のとうわにゃんは7ヶ月でした。行き先は、コペンハーゲン（デンマーク）、チューリッヒ（スイス）、ウィーン（オーストリア）です。とうわにゃんがいるおかげで、旅行中たくさんの方に声をかけてもらったり、抱っこしてもらったりしました。私たちと同じように赤ちゃん連れのご家族とは、目が合えば笑顔でお互いの頑張りを共有したりもしました。赤ちゃんはまさしくボーダレス！

その他旅先でのボーダレスは他にもたくさんありました。例えば、デンマークでは、小学校を見学した際に、デンマークの小学校では、教室はたくさんの外（日本でいうと校庭や中庭など）との動線があり出入りが自由でした。日本のように正門もなく、学校を正門で囲ってしまう日本と比べると、外との境界が多様で自由でした。

各国のトイレもおもしろいです。日本のように、男性が青、女性が赤、という区別はなく男女共に同じ色。オムツ交換用の場所は、広くゆったりとしているところが多く、モビールが付いていたりと落ち着いてオムツを換えることができました。日本では、成田空港のオムツ交換場所で、ミルク用のお湯の機械が付いていたことに驚きました！これは助かりますね。

混んでいるお店にベビーカーが入っても、お店の人にも他のお客さんにも嫌な顔をされることは一度もありませんでした。例えば、ウィーン。古いカフェはテーブルがいっぱい隣との間隔が狭いのですが、赤ちゃん連れ、ベビーカーありでも、特別な扱いではありませんでした。同様に市場で軽く食事をした際にも、ベビーカーが嫌がられることはありません。誰にも等しく食事をする権利がある、と感じました。

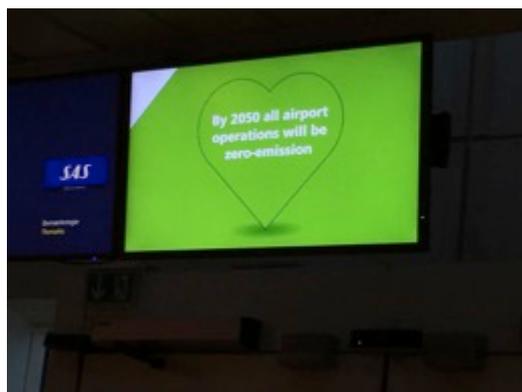
そして、コペンハーゲンでもウィーンでも街にはわんちゃんがたくさんいました。喫茶店、地下鉄や電車。ケースに入れられることもなく、どこでも飼い主と一緒にわんちゃんはいました。電車では相席が一般的で、わんちゃんと一緒に相席もごく日常の光景のようでした。

ちなみに、デンマークは、2050年までに化石燃料への依存ゼロを目標に掲げる未来の環境にも優しい国です。平地であることを味方に、街には自転車が溢れていました。自転車用の道路が確保され、都市計画も自転車が走りやすいようになっていました。新車を購入すると、税金が180%だとか！！

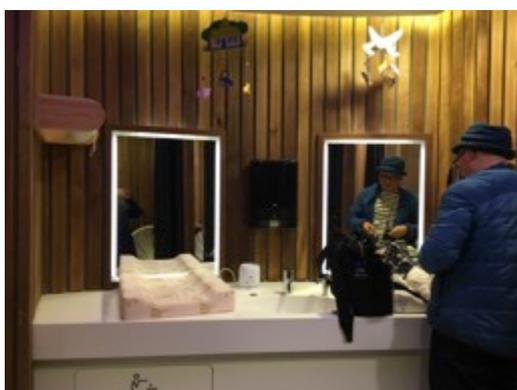
環境、動物、さまざまな人に優しさを感じる旅でした。環境に優しいことをエコ・フレンドリーと言ったりしますが、さまざまなボーダレスを意識していることを「ポーポキ・フレンドリー」といえるかもしれませんね。



ウィーンのお舗カフェにて。



コペンハーゲンの空港の搭乗口。  
2050年に向けた環境への目標を掲げています。



オムツ交換@コペンハーゲンのショッピングモール。



ご協力お願いいたします！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011年に起こった東日本大震災をきっかけに活動をしており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を2012年1月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10か国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動を続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、[popokipeace@gmail.com](mailto:popokipeace@gmail.com) へお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)



<http://popoki.cruisejapan.com>

郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!